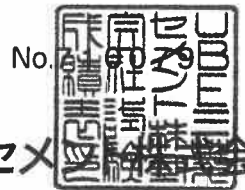


セメント試験成績表



2025 年 11 月度

UBE三菱セメント株式会社

種 類 品 質		普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高炉セメント B 種 JIS R 5211			
		J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績		
			平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)
密 度 g/cm ³		—	3.16✓	—	—	—	3.14	—	—	—	3.04	—	—
比表面積 cm ² /g		2500以上	3230✓	76	—	3300以上	4480	79	—	3000以上	3930	81	—
凝 結	水 量 %	—	27.9	—	—	—	30.4	—	—	—	29.7	—	—
	始 発 h-min	60min以上	2-15✓	—	(1-50)	45min以上	1-45	—	(1-15)	60min以上	2-50	—	(2-25)
	終 結 h-min	10h以下	3-20✓	—	4-40	10h以下	2-47	—	3-20	10h以下	4-07	—	5-55
安定性	バット法	良	良	—	—	良	良	—	—	良	良	—	—
圧縮強さ N/mm ²	1 d	—	—	—	—	10.0以上	26.0	1.55	—	—	—	—	—
	3 d	12.5以上	31.1✓	1.50	—	20.0以上	47.3	1.66	—	10.0以上	21.7	1.43	—
	7 d	22.5以上	45.5✓	1.70	—	32.5以上	58.5	1.87	—	17.5以上	33.9	1.67	—
	28 d	42.5以上	60.3✓	1.81	—	47.5以上	67.8	1.96	—	42.5以上	61.8	1.95	—
水和熱 J/g	7 d	—	330	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28 d	—	382	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
化学成分 %	酸化マグ ネシウム	5.0以下	1.13✓	—	1.70	5.0以下	1.01	—	1.66	6.0以下	3.24	—	3.84
	三酸化 硫 黄	3.5以下	2.39✓	—	2.65	3.5以下	2.90	—	3.34	4.0以下	2.15	—	2.24
	強 熱 減 量	5.0以下	2.56✓	—	2.70	5.0以下	1.20	—	1.42	5.0以下	1.63	—	2.16
	全 アルカリ	0.75以下	0.46✓	—	0.59	0.75以下	0.45	—	0.61	—	—	—	—
	塩化物 イオン	0.035以下	0.022✓	—	0.031	0.02以下	0.008	—	0.016	—	0.012	—	—

備 考 ○ ポルトランドセメント（全アルカリの最大値のうち直近 6 ヶ月の最大の値）

・普通ポルトランドセメント…………… 0.61%

・早強ポルトランドセメント…………… 0.64%

○ 高炉セメント B 種

・ベースセメントの全アルカリ…………… 0.46%

・高炉スラグの分量…………… 40~45%

1. 試験方法は JIS R 5201、JIS R 5202、JIS R 5203、JIS R 5204 による。

2. 28d圧縮強さおよび28d水和熱は前月度の値を示す。



◎ お問い合わせその他のご連絡先

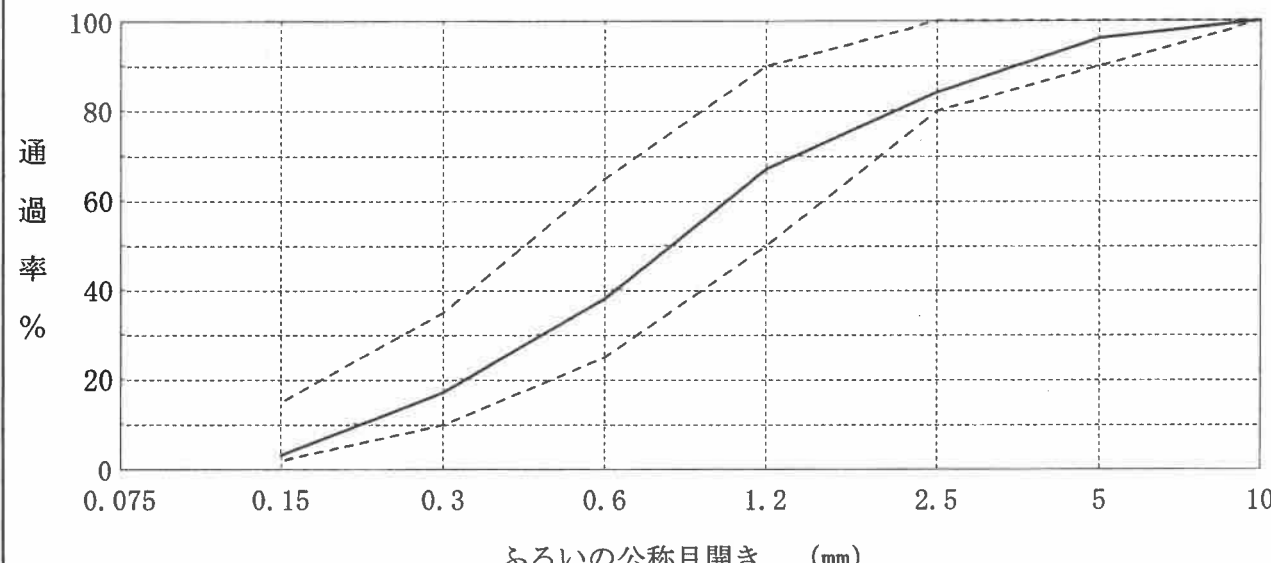
〒730-0031 広島市中区紙屋町 2-1-22

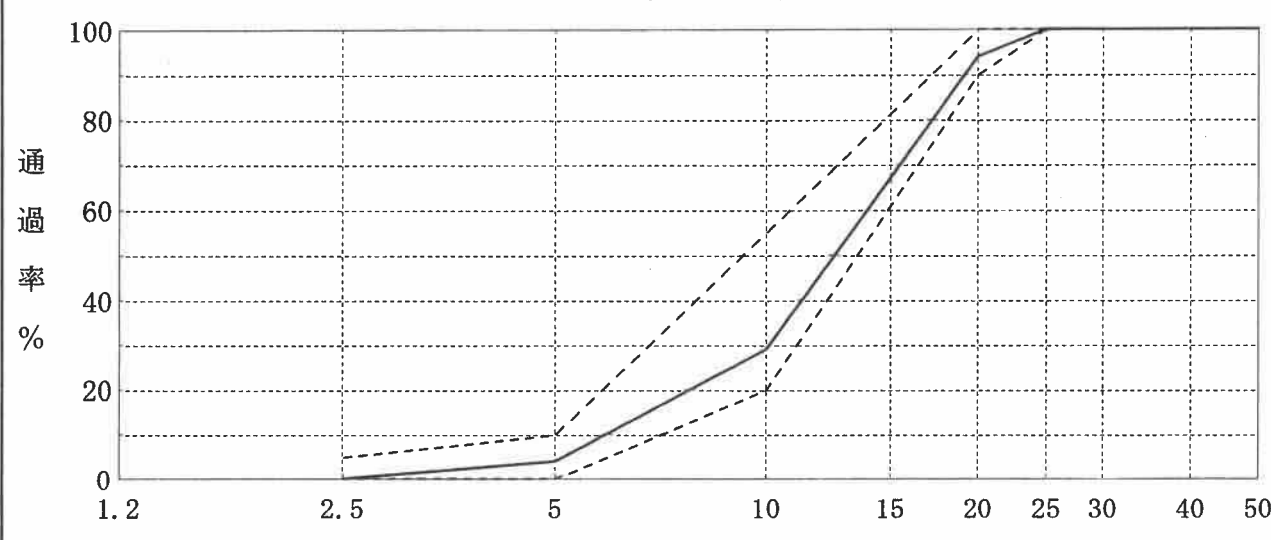
広島興銀ビル 8 F

UBE三菱セメント株式会社

中国支店

TEL 082-247-9613

試験規格		骨材のふるい分け試験表						検 印 欄			
JIS A 1102								主 任		試験係	
											
試験月日		令和 7年11月 6日									
試 料		産地品名		津山市加茂町知和							
		採取月日		令和 7年11月 5日							
		採取場所		ダンプトラック上							
ふるい分け前の試料の質量				503.1 (g)		ふるい分け方法		手動			
ふるいの 公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる 試料の質量及び質量分率				各 ふ る い に とどまる試料の 質量及び質量分率		各ふるいを連続するふるい の間にとどまる ものの質量分率		範 囲 上 限下 限 (%)	参 考 $\frac{A\sqrt{d}}{300}$	
	縮 分 ① (g)	縮 分 ② (g)	縮 分 計 mr(g)	(%)	(g)	(%)	(%)	(%)			
10	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	100	0	100 - 100	---	
5	17.8	0.0	17.8	4	17.8	4	96	4	100 - 90	228	
2.5	58.9	0.0	58.9	12	76.7	16	84	12	100 - 80	161	
1.2	87.0	0.0	87.0	17	163.7	33	67	17	90 - 50	114	
0.6	74.0	74.3	148.3	29	312.0	62	38	29	65 - 25	81.1	
0.3	54.6	51.2	105.8	21	417.8	83	17	21	35 - 10	57.4	
0.15	34.1	34.8	68.9	14	486.7	97	3	14	15 - 2	40.6	
受皿	7.1	7.7	14.8	3	501.5	100	0				
合 計			501.5	100							
粗 粒 率			2.95	規 格 値	2.90±0.15		判 定	㊟			
連続するふるいの間にとどまるものの質量分率				規 格 値 (%)	45未満		判 定	㊟			
ふるい分け前後の試料質量差			0.3	規 格 値 (%)	1.0未満		判 定	㊟			
粒 度 曲 線											
											
通過率 %											
ふるいの公称目開き (mm)											
備考：											

試験規格		骨材のふるい分け試験表				検 印 欄	
JIS A 1102						主 任	試験係
							
試験月日		令和 7年11月 6日					
試 料	産地品名	津山市加茂町知和					
	採取月日	令和 7年11月 5日					
	採取場所	ダンプトラック上					
ふるい分け前の試料の質量		5008.8 (g)		ふるい分け方法		手動	
ふるいの 公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる 試料の質量及び質量分率		各ふるいにとどまる 試料の質量及び質量分率		各ふるいを通過 する質量分率 (%)	範 囲 上 限 下 限 (%)	
	(g)	(%)	(g)	(%)			
50	0.0	0	0.0	0	100	100	100
40	0.0	0	0.0	0	100	100	100
30	0.0	0	0.0	0	100	100	100
25	0.0	0	0.0	0	100	100	100
20	306.1	6	306.1	6	94	100	90
15						-	-
10	3246.2	65	3552.3	71	29	55	20
5	1233.9	25	4786.2	96	4	10	0
2.5	217.7	4	5003.9	100	0	5	0
受皿	0.0	0	5003.9	100	0		
合 計			5003.9	100			
粗 粒 率		6.73	規 格 値		6.85±0.20	判 定	Ⓐ
ふるい分け前後の試料質量差		0.1	規 格 値 (%)		1.0未満	判 定	Ⓐ
粒 度 曲 線  ふるいの公称目開き (mm)							
備考：							



試 験 報 告 書

株式会社 ふじもと組 殿
岡山県津山市加茂町小瀬29-1

試験品内容：[種 別] JIS A 5308:2024 附属書JA「レディミストコンクリート用骨材」
JIS A 5005:2020「コンクリート用砕石及び砕砂」
粗骨材 コンクリート用砕石 2005 A (岩質：安山岩)
[大 き さ] 20～5mm
[採 取 日] 2024年11月29日
[産 地] 岡山県津山市加茂町知和
[採 取 場 所] スtockヤード
[製 造 業 者] (株)ふじもと組

試 験 項 目： 1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法) ✓

受領日(試料持込日)： 2024年 12月 12日

試 験 日： 2024年 12月 12日 ～ 2025年 6月 25日

試 験 結 果： 次頁以降のとおり

特 記 事 項： —

試験実施場所：一般財団法人 日本品質保証機構 関西マテリアルテクノ試験所 試験室

- (注) 1. 上記試験品は、試験申込者により試験実施場所へ持ち込まれたものである。
2. 試験品内容等については、試験申込者提出の試験申込書に基づき表記したものである。
3. 試験結果は当該試験品に対しての結果であり、製品すべてを保証するものではありません。

試験の結果は、上記のとおりであることを報告します。

2025年 6月 27日

大阪府東大阪市水走3丁目8番19号
一般財団法人 日本品質保証機構
関西マテリアルテクノ試験所

所 長 井上 秀

技術管理者 那良 時義



この試験報告書の転載、一部分の複製をするときは、事前に当機構の承認を受けてください。
尚、報告書には改ざん防止策を施しています。

一般財団法人 日本品質保証機構



7/3

1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験（モルタルバー法）

(1)試験方法 JIS A 1146:2022「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。

- ・粒度調整した代表試料の粒度分布：粒度区分A
- ・湿度95%以上を確保した手段：吸取紙による被覆及び容器底面の水張り

(2)使用したセメント ・種別：普通ポルトランドセメント

・販売会社名：一般社団法人 セメント協会

・酸化ナトリウム(Na_2O) 0.27 %・酸化カリウム(K_2O) 0.38 %・全アルカリ量(R_2O) 0.52 %

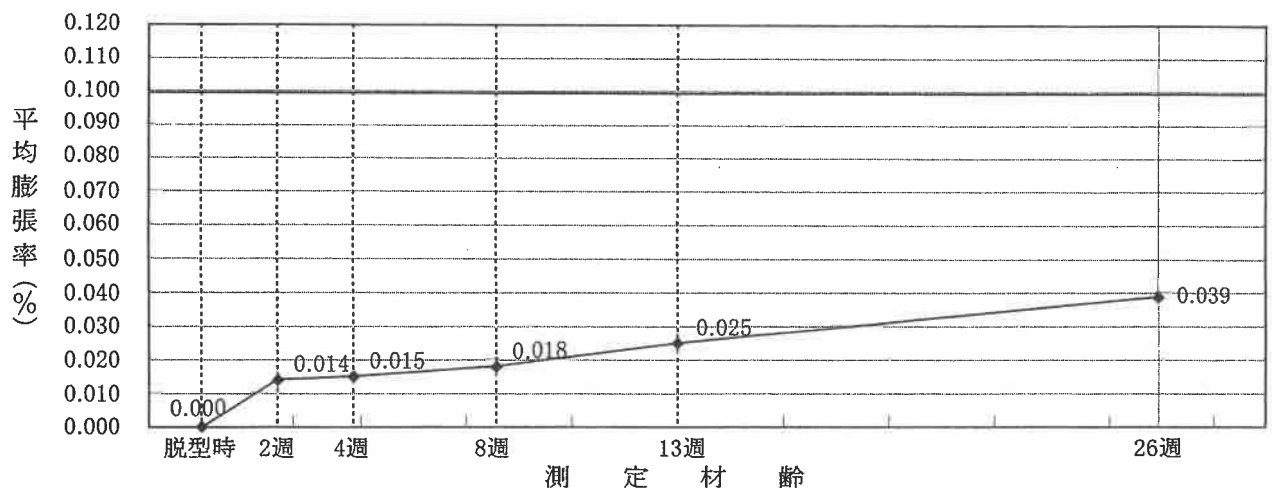
・水酸化ナトリウム水溶液を加えた後のセメントの全アルカリ量：1.2 %

(3)判定基準 骨材のアルカリシリカ反応性の判定は、供試体3本の平均膨張率が、測定材齢26週で0.100%未満の場合は、「無害」とし、0.100%以上の場合は「無害でない」とする。

[備考] なお、測定材齢13週で0.050%以上の膨張を示した場合は、その時点で、「無害でない」としてもよい。測定材齢13週で0.050%未満のものは、その時点で、「無害」と判定してはならず、測定材齢26週まで試験を続けた後に判定しなければならない。

(4)試験結果

膨 張 率 (%)	測定材齢 試験No.	脱型時	2週	4週	8週	13週	26週	判定
	1	—	0.015	0.015	0.018	0.025	0.040	
	2	—	0.014	0.016	0.019	0.026	0.039	
	3	—	0.013	0.014	0.017	0.023	0.038	
	平均	0.000	0.014	0.015	0.018	0.025	0.039	
外観観察		異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	無害 ✓





070239JP

試験番号 A-24-5-0122-3 1/2

受付日 令和 6 年 12 月 13 日

発行日 令和 7 年 6 月 24 日

骨材のアルカリシリカ反応性試験結果報告書

【モルタルバー法】

JNLA登録試験事業
ベルテクス株式会社 試験分析センター
 福井県鯖江市二丁目四番七号8番地
 TEL:0778-62-1000 FAX:0778-62-7723
 発行責任者 センター長 小林 宏成

試験結果は、本報告書のとおりであることを証明します。

依頼者	会社名	鳥取県コンクリート製品協同組合																																														
	所在地	鳥取県倉吉市東巖城町12番地																																														
試験日		令和6年12月23日～令和7年6月24日																																														
試料	種類(岩種)	鋳物砂(5)加工砂(95)		産地	鳥取県西伯郡大山町																																											
	採取日	令和6年12月10日		搬入日	令和6年12月12日																																											
	採取場所	ベルテクス(株)大山工場		採取者	高原 雅彦																																											
試験方法		JIS A 1146:2022「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。 ※試験に用いたセメント 種別：普通ポルトランドセメント 製造会社名：社団法人セメント協会 酸化ナトリウム(Na ₂ O)：0.27 % 酸化カリウム(K ₂ O)：0.38 % 全アルカリ量：0.52 % ※水酸化ナトリウム水溶液を加えた後のセメントの全アルカリ量：1.2 %																																														
試験実施場所		ベルテクス株式会社 試験分析センター 福井県鯖江市二丁掛町7号6番地																																														
試験結果		モルタルバー法による試験体の膨張率 単位: % <table><tr><td>供試体番号</td><td>脱型時</td><td>2週</td><td>4週</td><td>8週</td><td>13週</td><td>26週</td></tr><tr><td>1</td><td>—</td><td>0.007</td><td>0.011</td><td>0.014</td><td>0.017</td><td>0.018</td></tr><tr><td>2</td><td>—</td><td>0.006</td><td>0.011</td><td>0.014</td><td>0.017</td><td>0.018</td></tr><tr><td>3</td><td>—</td><td>0.007</td><td>0.011</td><td>0.014</td><td>0.017</td><td>0.018</td></tr><tr><td>平均値</td><td>0.000</td><td>0.007</td><td>0.011</td><td>0.014</td><td>0.017</td><td>0.018</td></tr><tr><td>外観観察結果</td><td>—</td><td>良</td><td>良</td><td>良</td><td>良</td><td>良</td></tr></table>					供試体番号	脱型時	2週	4週	8週	13週	26週	1	—	0.007	0.011	0.014	0.017	0.018	2	—	0.006	0.011	0.014	0.017	0.018	3	—	0.007	0.011	0.014	0.017	0.018	平均値	0.000	0.007	0.011	0.014	0.017	0.018	外観観察結果	—	良	良	良	良	良
供試体番号	脱型時	2週	4週	8週	13週	26週																																										
1	—	0.007	0.011	0.014	0.017	0.018																																										
2	—	0.006	0.011	0.014	0.017	0.018																																										
3	—	0.007	0.011	0.014	0.017	0.018																																										
平均値	0.000	0.007	0.011	0.014	0.017	0.018																																										
外観観察結果	—	良	良	良	良	良																																										
判定基準		① 3本の平均膨張率が、26週後に0.100%未満の場合：無害 ② 3本の平均膨張率が、26週後に0.100%以上の場合：無害でない ※備考 材齢13週後に0.050%以上の膨張を示した場合は、その時点で“無害でない”としてもよい。その場合、26週の測定を省略できる。材齢13週で0.050%未満の場合は26週まで試験を続けた後に判定しなければならない。																																														
判定		無 害																																														
備考		「JIS A 5005 5.6 アルカリシリカ反応性」に基づき、本試験結果は、同一原石により製造された砕石および砕砂に用いることが出来る。 ※モルタルバー法による膨張率を裏面に示す。																																														

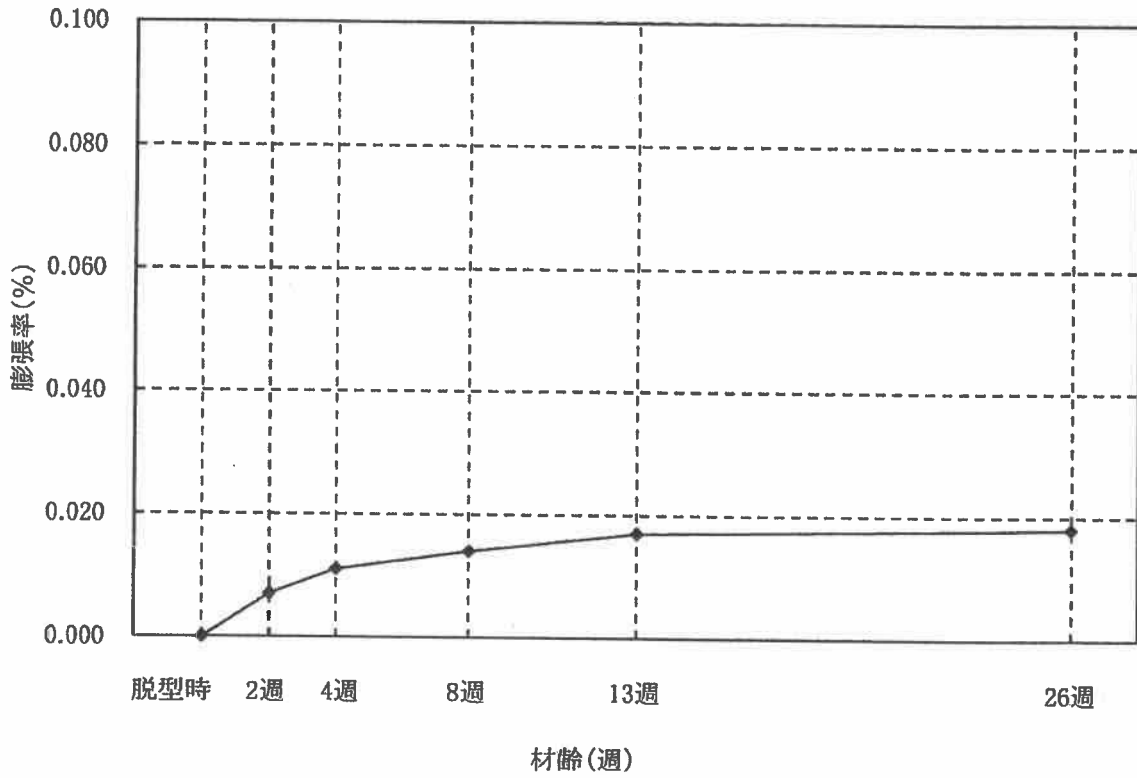
＜本書の取扱いについて＞

- ・本書の試験結果は、本書中に記載の試験体について得られたものです。
- ・本書を複製して第三者に開示する場合は、必ず全文を複製することとし、一部分だけの複製は行わないで下さい。
- ・本書の内容を転載する場合は、文書により事前に本所の承認を得るようにして下さい。

技術管理者	榎田 直也
試験担当者	榎田 直也

参考資料

試験番号 A-24-5-0122-3 2/2



アルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)による膨張率



(株)きたむら

御中

2025年 7月度～2025年12月度 コンクリート用化学混和剤(JIS A 6204)試験結果報告書

種 類 高性能減水剤 (I 種)

商 品 名 シーカ ビスコクリート ACE 390 (100%)



1. コンクリートの試験結果

	項 目	JIS A 6204による規定値	形式評価試験値	性能確認試験値
フレッシュコンクリート	減 水 率 %	12 以上	15 ✓	15
	ブリーディング量の比 %	— 以下	—	—
	ブリーディング量の差 cm^3/cm^3	— 以下	—	—
	凝結時間の差 分	始 発	+90 以下	-30 ✓
		終 結	+90 以下	-35 ✓
	経時変化量	スランプ cm	— 以下	—
		空気量 %	— 以内	—
硬化コンクリート	圧縮強度比 %	材齢1日	— 以上	—
		材齢2日 (5°C)	— 以上	—
		材齢7日	115 以上	133 ✓
		材齢28日	110 以上	119 ✓
	長 さ 変 化 比 %	110 以下	94 ✓	—
	凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	— 以上	—	—

注記 1. 1m^3 当たりの化学混和剤の使用量 形式評価試験 7.00 kg/m^3 性能確認試験 7.00 kg/m^3 注記 2. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。ただし圧縮強度の性能確認試験は1年に1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。注記 3. この表に表示している形式評価試験は、2024年 9月 に ボゾリス ソリューションズ (株)技術開発センター で実施した試験結果である。2. 塩化物イオン(Cl^-)量及び全アルカリ量

項 目	JIS A 6204 による規定値	形式評価試験値	性能確認試験		
			化学混和剤中の含有量	1m^3 当たりの化学 混和剤の使用量	試 験 値
塩化物イオン(Cl^-)量	0.02 kg/m^3 以下	0.00 kg/m^3	0.00 %	7.00 kg/m^3	0.00 kg/m^3
全 アル カ リ 量	0.30 kg/m^3 以下	✓ 0.03 kg/m^3	0.4 %	7.00 kg/m^3	0.03 kg/m^3

注記 1. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。注記 2. この表に表示している形式評価試験は、2024年 9月 に ボゾリス ソリューションズ (株)技術開発センター で実施した試験結果である。

3. その他の項目

項 目	規 格 値	試 験 値
密 度 (g/cm^3 , 20°C)	1.01 ~ 1.07	1.03 ✓

注記. この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

コンクリート中の塩素イオン含有量測定データ (道路用)

株式会社 き た む ら

7年 11 月度

製 品 名 :

測定器具: ソルメイト 100



月 日	No.	コンクリート中の塩素 イオン含有量 (kg/m ³)	平均値 (kg/m ³)	規定値 (kg/m ³)	合否 判定
11/4	1	0.020	0.021	0.3以下	合
	2	0.024			
	3	0.020			
11/10	1	0.024	0.024	〃	合
	2	0.024			
	3	0.024			
11/17	1	0.024	0.023	〃	合
	2	0.020			
	3	0.024			
11/25	1	0.028	0.025	〃	合
	2	0.024			
	3	0.024			
	1				
	2				
	3				
備 考		測定器具は (財) 国土開発技術研究センター評価品			

アルカリ総量計算

令和7年11月度

(道路用)

株式会社きたむら

鳥取県鳥取市国府町岡益64-4番地

配合

単位量(kg/m ³)				
水	セメント	砕石	砕砂・鋳物砂	混和剤
175	358	1083	775	5.37

ポルトランドセメント全アルカリ6ヶ月間の最大値 0.61 %

骨材中のNaClの量 0.0 %

混和剤中の全アルカリ量 0.4 %

コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _c R _c = (単位セメント量kg/m ³) × (セメント中の全アルカリ量Na ₂ O _{eq} : %/100)	R _c = 2.184
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _a R _a = (単位混和材量kg/m ³) × (混和材中の全アルカリ量: %/100)	R _a = 0.000
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _s R _s = (単位骨材量kg/m ³) × 0.53 × (骨材中のNaClの量: %/100)	R _s = 0.000
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _m R _m = (単位混和剤量kg/m ³) × (混和剤中の全アルカリ量: %/100)	R _m = 0.021
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³): R _p R _p = (単位流動化剤量kg/m ³) × (流動化剤中の全アルカリ量: %/100)	R _p = 0.000
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m ³): R _t R _t = R _c + R _a + R _s + R _m + R _p	R _t = 2.21

コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策 3.0kg/m³以下2.21 Kg/m³ < 3.0Kg/m³ 判定 適

以上